

# ゆりかごだより

Vol.1  
2025年7月



Interview  
インタビュー

私は「こうのとりのゆりかご」があったから救われた

「特別養子縁組家族交流会」開催



医療法人聖粒会  
**慈恵病院**

## こうのとりのゆりかご基金

小さいのちを一緒に支えてください

日本では出生数が年間70万人を割れる一方、人工妊娠中絶件数は年間12万人を超えています。「思いがけない妊娠」「望まない妊娠」はそれほど多いということです。

妊娠の事実を隠し通さなければならない妊婦さんは、病院を受診することなく出産日を迎えます。このような妊婦さんのために『こうのとりのゆりかご基金』では、「SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談」「こうのとりのゆりかご(赤ちゃんポスト)」「エンゼルルーム(母子保護施設)」「内密出産」等の選択肢をご用意しております。

これらの活動には年間4,000～5,000万円の費用がかかり、私ども中小の病院には大変重たいものです。皆さまから寄せていただいた『こうのとりのゆりかご基金』は、支援の必要な赤ちゃんとお母さんのために大切にに使わせていただいております。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

温かなご寄付をお待ちしております

### 郵便局振込

【口座番号】  
01760-7-96387  
【口座名義】  
こうのとりのゆりかご基金

### 銀行振込

肥後銀行 島崎支店  
普通預金 273221  
慈恵病院  
こうのとりのゆりかご  
代表 蓮田健

### 現金書留

〒860-0073  
熊本市西区島崎6-1-27  
「こうのとりの  
ゆりかご基金」宛

### こうのとりの ゆりかご募金箱

当院マリア館1階・2階に  
設置しております。

＼ベビードレスありがとうございます／

株式会社本山設備様より、「こうのとりのゆりかご」「内密出産」の赤ちゃんが当院を退院する際に着せてほしい、とベビードレスを頂きました。3回目となる今回は、肌着やガーゼタオルの他、エンゼルこども食堂へ食材の寄付も頂きました。誠にありがとうございました。



### 慈恵病院の歴史的背景

1897(明治30)年、ハンセン病患者のために施療所が熊本の花園村中尾丸に設立されました。その翌年、マリアの宣教者フランシスコ修道会より1,000人以上の希望者から選ばれた5人のシスターが熊本に到着。島崎村琵琶崎に修道院を創設し、1901(明治34)年にハンセン病院「待労院」を作りました。これが当院の原型となります。

シスター達が最初にしたのは、ハンセン病者の足を洗うこと(仕えること)。このことが活動の原点になったといわれ、この精神は今でも当院に引き継がれています。



発行:医療法人聖粒会 慈恵病院  
〒860-0073熊本県熊本市西区島崎6丁目1番27号

TEL:096-355-6131(代表) FAX:096-359-8221  
HP:http://jikei-hp.or.jp

※個人情報保護のため一部写真を加工して掲載しております。

私は未成年の大学生の時に妊娠しました。実家では親からの虐待があり、逃げるようにして大学へ進学し、一人暮らしをしていました。学費や生活費はすべて奨学金やアルバイトで賄い、頼れる人は誰もいませんでした。そんな中での妊娠。未受診出産の危険性は理解していましたが、保険証を使うと実親に知られてしまうのが怖く、病院には行けませんでした。何より、実親に親権を取られることが不安で、実親のもとで育てることは考えられませんでした。

出産は、誰にも相談できないまま、自宅のアパートで一人きりで迎えました。生まれた翌朝、私は赤ちゃんを連れて新幹線に乗り、熊本の慈恵病院へ向かいました。事前にインターネッで出産方法や新幹線の乗り方、必要な持ち物などを調べ、赤ちゃん

に必要なオムツや着替えも用意していました。体は貧血でフラフラでしたが、なんとかして赤ちゃんを安全な場所へ届けたかったです。

慈恵病院に到着し、「この通りのゆりかご」の扉を開けましたが、どうしても赤ちゃんを入れることができず、立ちすくんでしまいました。そのとき、後ろから看護師さんが優しく声をかけてくださり、私は初めて大人に相談することができました。私は、六日間ほど入院し、体を休めてから自宅へ戻りました。そして、赤ちゃんは里親の元で生活することになりました。

その後、私は大学を卒業し、大学で知り合ったパートナーと結婚。現在は仕事をしながら、子どもの近くで暮らしています。休日には里親さん

を通じて子どもと過ごすこともあり、子どもの成長を見守れることがとても嬉しいです。振り返ると、私は本当に運が良かったと思います。未受診での出産は非常に危険ですし、もし「この通りのゆりかご」がなかったら、私も赤ちゃんもどうなっていたかわかりません。「ここなら大丈夫」と思えた慈恵病院があったから、私たちは救われました。



実親が用意したベビーグッズ



「この通りのゆりかご」に対して賛否両論あることは知っています。でも、私のように頼れる人がいなくて、誰にも相談できずに一人で出産するしかない状況の人には、必要な場所だと心から思います。もし当時、病院に行ける選択肢や「内密出産」という制度があれば、もっと安心して産むことができたかもしれません。今でも「あの時、電話でも相談してみればよかったかな」と思うことがあります。でも、結果として私と赤ちゃんは守られました。

今、私は幸せです。近くで子どもが大きくなっていく姿を見ながら、夫と二人で穏やかな生活を送っています。あのとき、私を救ってくれた「この通りのゆりかご」が、これからも必要な人を救い続けてほしいと願っています。

## 『特別養子縁組家族交流会』開催！

2024年11月2日(土)、当院で特別養子縁組された19家族62名の皆さまに全国からお集まりいただき、ご家族の交流会を開催しました。2回目の開催となる今回は交流を深めるため2部構成にして第1部にミニ運動会、第2部にバーベキューを企画しました。

運動会では、初めに全員でエビカニクスを踊って準備運動。その後、おたまりレーや風船運びリレー、借り物競争、電車リレー、輪投げなど、小さなお子さまから大人まで参加しました。

また、場所を移ってのバーベキューでは、お肉以外に大きなアユやエビを焼いて、お腹いっぱい食べていただきました。お子さん達は、スーパーボールやヨーヨーすくい、わたあめ、かき氷なども楽しみ、お祭り気分で大いに盛り上がりました。

